

## Ⅱ 暮らしの向上

### 7 スポーツの振興

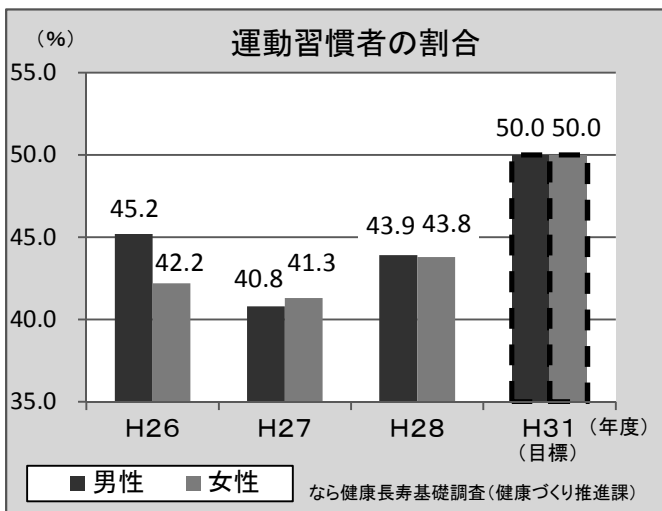
主担当部局(長)名  
くらし創造部長 榎田 斉志

#### 目指す姿

「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を実現するため、生涯にわたり、「県民のだれもが、いつでも、どこでも、運動・スポーツに親しめる環境づくり」を目指します。

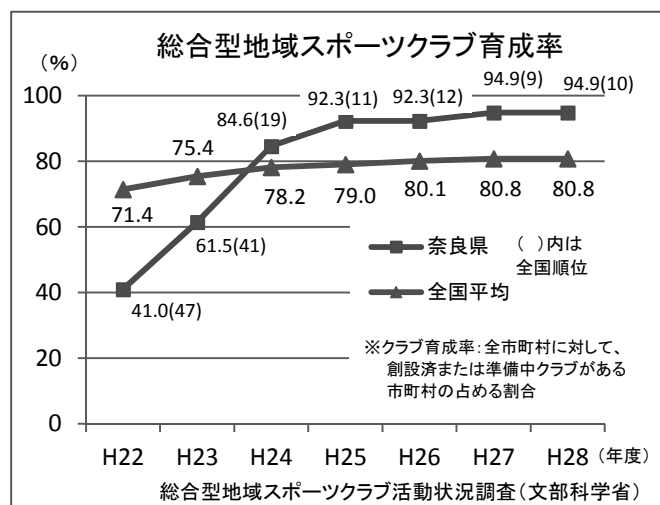
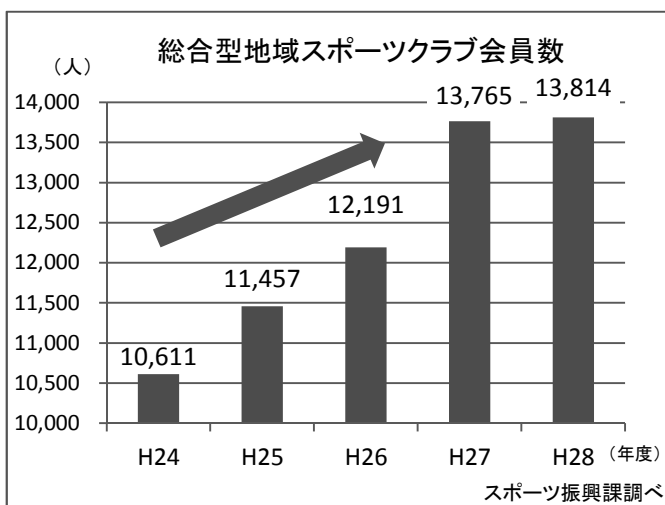
関係部局(長)名:地域振興部長 村田 崇、南部東部振興監 山本 尚、健康福祉部長 土井 敏多、県土マネジメント部長 山田 哲也、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉田 育弘

#### 1. 政策目標達成に向けた進捗状況



<b>目標</b>	平成31年度までに、1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合を50%に増やします。(H26年度:女性42.2%、男性45.2%)
<b>取組</b>	運動・スポーツを楽しむ環境づくりや機会の提供に取り組みました。
<b>成果</b>	平成28年度の運動習慣者の割合は、40歳代の男女や60歳以上の男性を中心に上昇したことから、男性が43.9%、女性が43.8%と、平成27年度を上回りました。

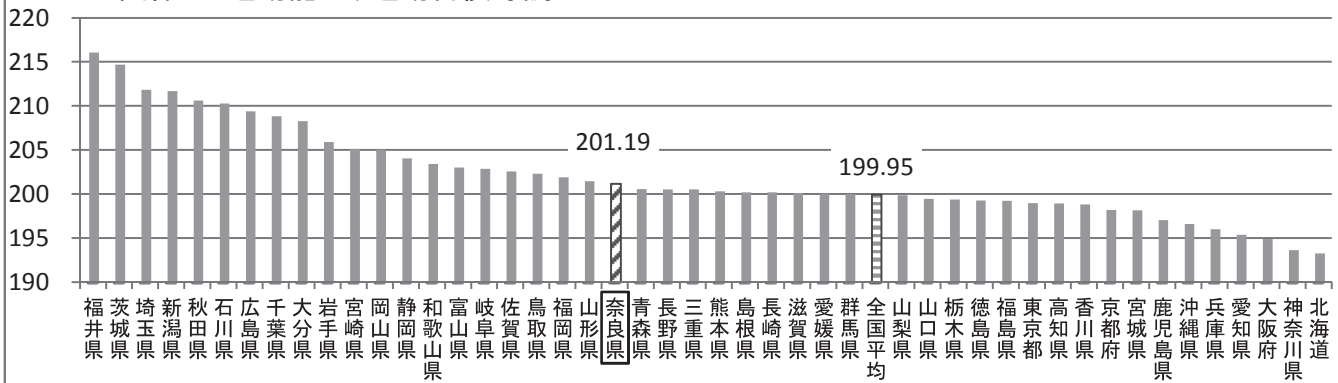
#### 2. 現状分析



総合型地域スポーツクラブの会員数は、平成24年度の10,611人から年々増加し、平成28年度には13,814人に増加しました。

総合型地域スポーツクラブの育成率は、平成22年度の41.0%(全国47位)から、平成28年度の94.9%(全国10位)に上昇しました。

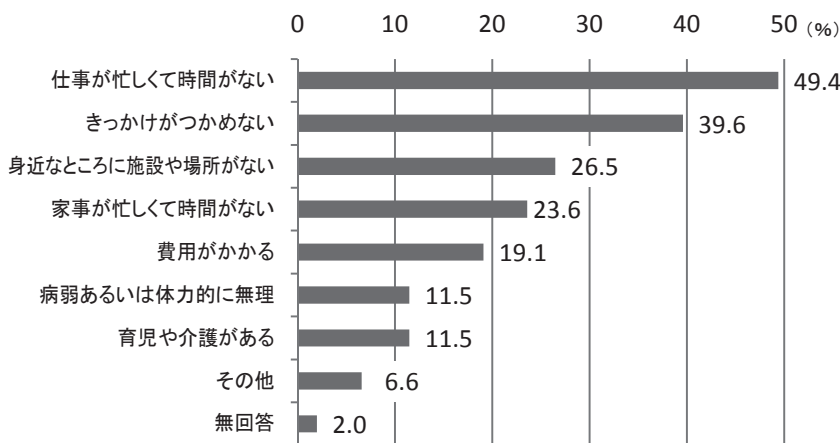
(点) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 ※小学5年生男女、中学2年生男女の体力測定合計点の総計



H28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)

奈良県の児童生徒の体力は、平成28年度は全国21位(小学5年生:男子27位、女子33位、中学2年生:男子15位、女子25位)と全国平均を上回っています。また、前年度と比較すると、体力測定合計点の総計も増加しており、児童生徒の体力は上昇傾向にあります。(H27年度:199.79点→H28年度:201.19点)

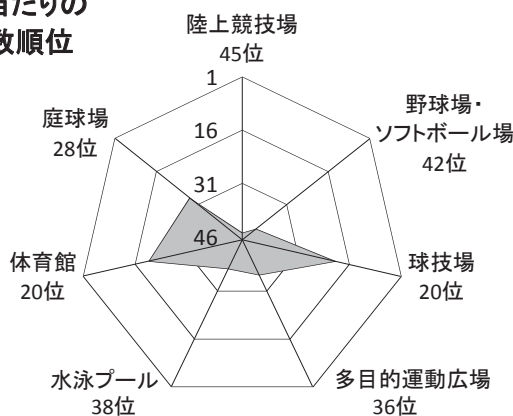
過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない理由



H28年度県民アンケート調査

過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由としては、「仕事が忙しく時間がない」が一番多く、次に「きっかけがつかめない」「身近なところに施設や場所がない」となっています。これは、スポーツの価値・楽しさへの意識の低さや、スポーツに親しめる環境の不足に起因すると思われます。

人口100万人当たりのスポーツ施設数順位



H27年度社会教育調査(文部科学省)

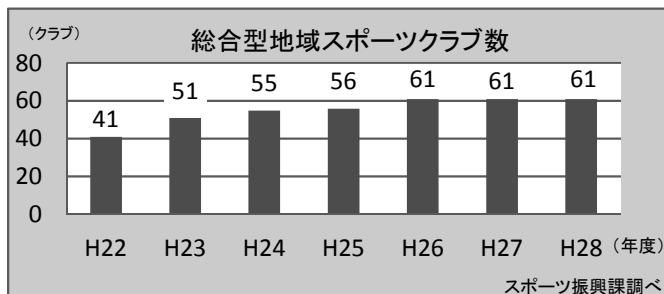
人口100万人当たりのスポーツ施設数は、体育館と球技場は全国で20位ですが、それ以外の施設数は低位にあり、奈良県内におけるスポーツ施設の少なさが顕著となっています。

### 3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

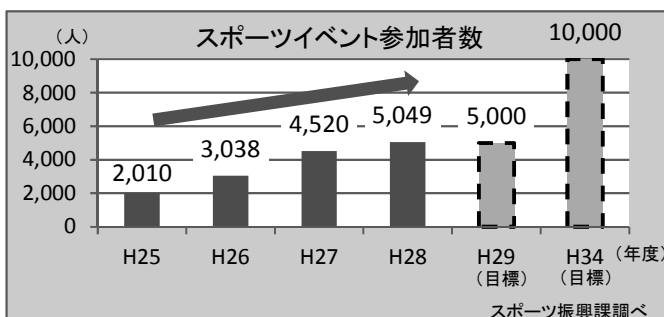
戦略1 だれもがいつでもスポーツを楽しめる環境の整備、地域で楽しむスポーツの推進を図ります。

主担当課(長)名 スポーツ振興課長 三原 耕治

戦略目標	①県内にある総合型地域スポーツクラブのうち、活発な活動をしているクラブを増やします。 ②スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)の参加者数を平成29年度までに5,000人、平成34年度までに10,000人に増やし、スポーツツーリズムを推進します。(H26年度:3,038人)
------	--



取組	クラブアドバイザー派遣や情報発信、推進協議会の開催等、総合型地域スポーツクラブへの支援内容を充実しました。(①)
成果	総合型地域スポーツクラブ数は、市町村等に対する人材育成や活動支援等により、平成22年度の41クラブから、平成28年度は61クラブに増加しました。



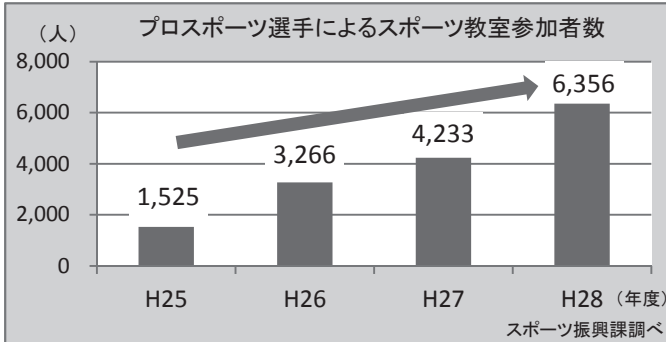
取組	幅広い世代を対象とした様々な種目のスポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)を充実させました。(②)
成果	スポーツイベントへの参加者数は、県内の総合型地域スポーツクラブが活発化してきたことにより、平成25年度の2,010人から年々増加しており、平成28年度は5,049人となり、平成29年度目標の5,000人を達成しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
<b>総合型地域スポーツクラブによる基盤づくり(①)</b>				
県が配置するクラブアドバイザーによる巡回指導回数(回)	125	123	136	スポーツ振興課
<b>ライフステージに応じた運動・スポーツの推進(①,②)</b>				
トップアスリートと子どもとの交流イベント参加者数(人)	1,180	1,085	1,310	スポーツ振興課
<b>障害者の運動・スポーツの推進(①,②)</b>				
県障害者スポーツ大会参加者数(人)	1,045	1,064	1,091	障害福祉課
<b>身近な公共施設等の活用(①,②)</b>				
「スイムピア奈良」利用者数(人)	79,191	152,480	195,792	公園緑地課
橿原公苑におけるナイトラン参加者数(人)	29,915	29,732	25,618	スポーツ振興課
<b>南部地域・東部地域の振興を目指したスポーツイベントの実施(①,②)</b>				
サイクルスポーツイベント、アウトドアチャレンジレース参加者数(人)	2,100	1,841	2,096	スポーツ振興課
弘法大師の道を活用したトレイルランニングレース参加者数(人)	135	167	199	南部東部振興課
<b>参加型スポーツイベントの実施(①,②)</b>				
奈良マラソンへの奈良県民のエントリー人数(人)	8,227	8,030	8,023	スポーツ振興課

#### これまでの成果

- ・総合型地域スポーツクラブへの活動支援により、総合型クラブのうち法人格を持つクラブの数及び割合が4クラブ、9.8%(H22年度)から、18クラブ、29.5%(H28年度)へと増加し、クラブの基盤強化が図られました。(①)
- ・奈良マラソンでは、全都道府県からのエントリーがあっただけでなく、旅行会社と提携し、パック旅行を企画したことにより、海外からのエントリー数が413人(H27年)から625人(H28年)に増加しました。(①,②)

戦略目標	①平成34年度までに、多くの人にあこがれや感動を与えるプロスポーツ等の試合数を60試合に増やします。(H26年度:32試合)
------	--



取組	子どもたちとプロスポーツ選手との交流を実施しました。(①)
成果	スポーツの活性化と子どもたちへあこがれや感動を与えるため、普段はあまり接することのできないプロスポーツ選手による野球教室等を開催しました。また、「バンビシヤス奈良」等プロスポーツチームによるスポーツ教室も開催され、延べ6,356人の青少年が参加しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
トップアスリートの育成(①)				
国民体育大会の総合成績(位)※	35 ↗	33 ↗	34 ↘	スポーツ振興課
スポーツ指導者数(日体協公認)(人)	2,081 ↘	2,140 ↗	2,203 ↗	スポーツ振興課
プロスポーツ等の試合の招致(①)				
プロスポーツ等の試合数(試合)	32 ↗	44 ↗	51 ↗	スポーツ振興課

※は数値の低い方が良くなる指標

### これまでの成果

- ・県内トップレベルのジュニア選手や障害者アスリート等30人を、優れたトレーニング環境や優秀な指導者を有するナショナルトレーニングセンター(NTC)等に派遣し、強化トレーニングを実施しました。(①)
- ・奈良県スポーツアカデミー構想検討委員会を開催し、有識者からの提言を得るとともに、民間事業者へのヒアリングを行い、平成29年3月に、奈良県スポーツアカデミー基本方針を策定しました。また、この基本方針を踏まえ、スポーツ医科学に基づく、幼児期の子どもたちを対象とした運動プログラムをあわせて策定しました。(①)
- ・ラグビーワールドカップキャンプ地招致について、平成28年12月に、天理市が公認チームキャンプ地選定プロセスに応募し、平成29年3月には、ラグビーワールドカップ組織委員会による実地審査が行われました。また、東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致については、平成28年度、オーストラリア、シンガポール、ヨーロッパ等において招致活動を実施するとともに、ベルギーからの視察受入を実施しました。さらに、ワールドマスターズゲームズ2021関西については、平成28年10月に、葛城市(綱引)、吉野町(カヌースプリント)が開催地に決定しました。(①)

#### 4. 平成30年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた進捗状況＞  
1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合を増やすために、運動・スポーツを楽しむ環境や機会の提供に取り組んだ結果、平成28年度の運動習慣者の割合は、40歳代の男女や60歳以上の男性を中心に上昇したことから、男性が43.9%、女性が43.8%と、平成27年度を上回りました。

＜戦略目標達成に向けた進捗状況＞  
・総合型地域スポーツクラブ数は、市町村等に対する人材育成や活動支援等により、平成22年度の41クラブから、平成28年度は61クラブに増加しました。  
・スポーツイベントへの参加者数は、県内の総合型地域スポーツクラブが活発化してきたことにより、平成25年度の2,010人から年々増加しており、平成28年度は5,049人となり、平成29年度目標の5,000人を達成しました。  
・スポーツの活性化と子どもたちへあこがれや感動を与えるため、プロスポーツ選手による野球教室等を開催しました。また、「バンビシャス奈良」等プロスポーツチームによるスポーツ教室も開催され、延べ6,356人の少年少女が参加しました。

＜奈良県の持っている強み＞  
1 平成28年度の奈良マラソン出走者数は11,928人(フルマラソン)となっており、地域のイベントとして定着  
2 奈良マラソンは、名所を巡るコース設定や、ボランティアによるおもてなし、沿道からの応援について、参加ランナーから高い評価を得ている  
3 奈良県は、豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等が豊富  
4 クラブ育成率が全国平均よりも高い

＜奈良県の抱えている弱み＞  
5 青壮年期(20～64歳)の運動習慣のある人の割合が低い  
6 プロスポーツ観戦に行く人の割合が低い  
7 スポーツ施設が少ない  
8 大きなスポーツイベントを招致できる施設が不足  
9 キッズ・ジュニア期からの選手強化体制・施設が整っていない  
10 プロスポーツチームが少ない  
11 奈良県を拠点にする実業団チームが少なく、能力を持った高校生・大学生が県外に流出

＜奈良県への追い風＞  
a ウォーキングやジョギング、サイクリング等健康づくりが全国的なブーム  
b リオ、ソチオリンピックで奈良県ゆかりの選手が活躍  
c 2019年ラグビーワールドカップの日本開催。試合会場の1つに近隣の東大阪市や神戸市が決定  
d 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催  
e ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催。県内市町村においても、競技大会の開催が決定  
f スポーツツーリズムへの関心の高まりとともに、国においても観光立国の実現に向けた取組を積極的に推進

＜奈良県への向かい風＞  
g 趣味・趣向の多様化  
h 移動手段等の利便性の向上による運動不足  
i 子どもの外遊びの機会が減少  
j 各都道府県・市町村も市民参加型のスポーツイベントに力を入れた結果、類似のイベントが増加  
k スポーツ施設の老朽化

＜強みで追い風を活かす課題＞  
【重要課題】総合型地域スポーツクラブの活性化(4,a)  
・参加型スポーツイベントの実施(1,2,3,4,a,f)  
【重要課題】ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致(2,b,c,d)  
・スポーツツーリズムの推進(1,2,3,a,e,f)

＜強みで向かい風を克服する課題＞  
地域の地勢等を活かしたスポーツイベントの開催(3,g,i,j)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞  
・東京オリンピック・パラリンピックに向けたジュニア・トップアスリート育成(9,11,b,d)  
・ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致に向けた施設整備(7,8,c,d)  
【重要課題】奈良県スポーツアカデミーの推進(7,9,11,b,c,d)  
・就学前教育における運動習慣づくり(9,c,d)  
・トップアスリートを活用したスポーツイベントの実施(6,8,10,b)  
・青壮年期の運動・スポーツへの誘導(5,6,8,10,a,c,d,e)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞  
・既存スポーツ施設の長寿命化の検討(7,8,k)  
・県内スポーツ施設の役割分担や最適なスポーツ環境についての整理(6,7,8,10,h,k)  
【重要課題】奈良県スポーツ推進計画の中間見直し(5,6,7,8,9,10,11,g,h,i,j,k)



## 5. 平成27年度の評価を踏まえ、平成29年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
参加型スポーツイベントの実施(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良マラソン等のスポーツイベントの開催にあたり、イベント参加者へのアンケートをもとにニーズを把握し、内容の見直し及び充実を図りました。</li> <li>・県が開催していた奈良県RUN<sup>x2</sup>リレーマラソンと、橿原市が開催していた飛鳥リレーマラソンについて、県、市町村、関係団体で連携して実行委員会を組織し、整理・統合及び内容の充実を図ることとしました。</li> </ul>
奈良県スポーツアカデミーの推進(戦略2)	施設(ハード)整備よりも、まずはスポーツ医科学に基づく理論(ソフト)の構築を優先することとし、幼児運動プログラムを策定して実践に取り組むこととしました。

## 6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
総合型地域スポーツクラブの活性化(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活発な活動をする総合型地域スポーツクラブを増やします。</li> <li>・健康づくりの取組と連携して、総合型地域スポーツクラブの活動内容の充実を図ります。</li> </ul>
ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致(戦略2)	これまでにキャンプ地招致活動を行った国・組織と継続的に交渉し、招致国決定を目指します。
弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
奈良県スポーツアカデミーの推進(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度に策定したスポーツ医科学に基づく運動プログラムを、モデル幼稚園において実践します。</li> <li>・奈良県・市町村長サミット等で、その成果を事例報告するなど、市町村と連携することで広く県内の幼稚園等に普及を図ります。</li> </ul>
弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
奈良県スポーツ推進計画の中間見直し(戦略1)	計画の中間見直しの中で、中長期的な視点による県内スポーツ施設のあり方(配置・機能等)、奈良県スポーツ推進計画を推進する体制の構築等を検討します。